

各事業のロードマップ振り返り(18期)

総会資料、理事会資料、執行部との打ち合わせ、各委員会・事業の課題をもとに、18期の事業実施計画と実施目標、到達目標の達成度と経過評価(遂行困難な状況の課題)をあげ、19期事業計画に反映させる。

18期の基本的な活動方針：17期に引き続き、18期も国内における応用的・実践的なスポーツ栄養学の基盤づくりと発展を目指す。この方針を全ての委員会および事業の根幹とし、19期の事業計画を遂行する。

委員会	中期的目標 (15-16期)	中期的目標 (17-18期)	中期目標(17~18期)に対する評価			
			到達目標	実施計画	経過評価	
研究誌編集	研究と実践活動の両方の報告を含む独自性のある学会誌としてのプレゼンス向上	研究と実践活動の両方の報告を含む独自性のある学会誌としてのプレゼンス向上	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>第18号の総掲載数15~20本を目標</li> <li>研究・教育支援事業運営委員会と協力し、サプリメント号を発刊する。</li> </ul>	達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲載本数18本(原著・短報8本、事例報告5本)を達成した。</li> <li>研究・教育支援事業運営委員会と協力し、サプリメント号の発刊を行った。</li> </ul>
			実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>学会大会等での発表者に対し、論文(ショートレポートを含む)の執筆を促し、必要な支援を行う。</li> <li>研究・教育支援事業運営委員会とサプリメント号の編集作業にかかわる査読者の情報共有などを行う。</li> <li>外部データベースへの登録作業を進める。</li> </ul>	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>第10回大会発表者に対し声かけを行い、論文投稿を促した。</li> <li>サプリメント号の編集作業に関して、Editorial Manager運用方法について協議した。</li> <li>J-stage及びメディカルオンラインに論文の掲載を開始した。</li> </ul>
研究・教育支援事業運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践活動報告の発信に向けた各種講習会による支援体制づくり</li> <li>スポーツ現場に還元できるエビデンス構築のための体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践活動報告の発信に向けた各種講習会による支援体制づくり</li> <li>スポーツ現場に還元できるエビデンス構築のための体制づくり</li> </ul>	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究誌編集委員会と協力し、2025年8月に実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめた研究誌サプリメント号(ショートレポートを10本程度)を発刊する。</li> <li>スポーツ栄養学の基盤を高めるための情報提供(更新研修・セミナー各1回)を行う。</li> </ul>	達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究誌編集委員会と協力し、前期目標どおり2024年8月に実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめた研究誌サプリメント号(ショートレポートを9本掲載)を発刊した。</li> <li>スポーツ栄養学の基盤を高めるための情報提供(更新研修・セミナー各1回)を行った。</li> </ul>
			実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年11月と2025年8月までを目処に希望する会員(30~40名程度)を対象にショートレポート執筆マッチング企画を実施する。またマッチング成立後の課題について調査を行う。</li> <li>投稿されたショートレポートに対する教育的査読を引き続き行い、その体制を拡充する。</li> <li>2024年11月に更新研修、12月にセミナーを開催する。講演内容は、公認スポーツ栄養士及び学会員に対し、実践活動報告を推進する内容を主軸とするが、訴求力の高い講習会を運営し、参加者の向上を目指す。</li> </ul>	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年11月に希望する会員を対象に第4回ショートレポート執筆マッチング企画を実施した。参加人数は第1~3回よりも減少したが、4組のマッチングが成立し参加者の満足度は高い企画であった。</li> <li>投稿されたショートレポートに対する執筆指導および査読を随時行った。</li> <li>2024年9月の第10回大会において、執筆マッチング企画に関するシンポジウムの開催、及びマッチング希望演題表記を採用した。</li> <li>ショートレポートの投稿数増加に応じて、査読体制の拡充に対応するために投稿・査読体制に研究誌本誌と同じくEditorial Managerを導入するための準備を進めた。</li> <li>2024年11月に更新研修、12月にセミナーを開催した。参加者は延べ人数で更新研修1217名、セミナーは49名であった。また、今後の講習会に対するニーズや課題を検討するため、アンケートを実施した。</li> </ul>

渉外	<ul style="list-style-type: none"> <li>他団体との連携をよりスムーズに行う。</li> <li>可能であれば、新規団体との連携を模索する。</li> <li>臨スポとの合同シンポジウムのあり方を引き続き整理していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他団体との連携をよりスムーズに行う。</li> <li>可能であれば、新規団体との連携を模索する。</li> <li>臨スポとの合同シンポジウムのあり方を引き続き整理していく。</li> </ul>	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体との連携の継続</li> <li>他学会と連携した合同イベントの開催と、学会員への周知、参加促進</li> </ul>	達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>第18期では、日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウムを日本スポーツ栄養学会第8回大会にて「地域における多職種連携」というテーマで開催した。これまでより地域に着目したテーマであったことから、両学会より2名ずつ登壇した演者には、質疑応答だけでなく終了後も参加者からの質問が続き満足度の高い研修となった。</li> <li>日本栄養学学術連合では定期的に東京栄養サミット2021のコミットメントの対応について確認し、必要事項の報告や会議への出席を行った。また日本スポーツ体育健康科学学術連合、健康日本21連絡協議会の定例会議にも、庶務と連携して会議に出席し状況確認を行った。</li> </ul>
			実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体からの渉外事案発生時のスムーズな対応</li> <li>東京栄養サミット2021のコミットメントに関する情報収集、提供</li> <li>日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウム開催に向けた計画的な運営</li> </ul>	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京栄養サミット2021のコミットメントの対応も、引き続き進める。</li> <li>これまで連携のなかった学会等から後援依頼の相談が届いていることから、情報収集を試みる。</li> <li>日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウムは引き続き継続して開催する。</li> </ul>
国際交流	国際交流推進の意義を理解できる会員を増やす。	国際交流推進の意義を理解できる会員を増やす。	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>PINES:相互的かつ定期的な情報発信に発展させる。</li> <li>KSEN:学術交流活動の活性化に向けた取り組みを実施する。</li> <li>国外のスポーツ栄養に関わる研究者やスポーツ栄養士との交流を模索・促進する。</li> </ul>	達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>第17期の活動報告をJSNAのHPに掲載した。</li> <li>JSNA第10回大会で国際交流セッションを開催し、公益財団法人日本ゴルフ協会所属の指導者にご講演いただいた。</li> <li>PINESから届く全てのE-Newsの抜粋翻訳を行いJSNA会員に発信した。</li> <li>3名のJSNA会員の活動記事をPINESに提供した。</li> <li>PINESのMember Connect Sessionで、国際交流委員の1名が演者として出席した。</li> <li>KSENが発行している国際誌Journal of Physical Activity and Nutritionに掲載されている論文情報を2回JSNAの会員に発信した。</li> <li>KSENが2025年4月に開催する学会情報をJSNAの会員に発信した。</li> </ul>

			実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PINES から届く全ての E-News の抜粋情報と、PINES が発信している記事を年間 2-3 編翻訳して学会員に発信する。</li> <li>• PINES に対して JSNA から 1 編以上の記事を提供する。</li> <li>• KSEN と活動の再活性化に向けた意見交換を行う。</li> <li>• HP に第 17 期の国際交流報告活動を掲載する。</li> <li>• 2025 年の学会で国際交流セッションを開催することを検討する。</li> </ul>	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PINES との関係は良好である。PINES の発信する記事を JSNA が翻訳するほか、JSNA から提供したオリジナルの記事を世界各地の PINES 会員に向けて発信いただくなど、PINES 内における JSNA のプレゼンスを高められている。</li> <li>• JSNA 会員による PINES 入会・更新のためのディスカウントコードは入手しているが、PINES のウェブサイトがリニューアル中のため JSNA 会員に周知が行えていない。PINES と密な連携を取りながら適切なタイミングで情報を発信する。</li> <li>• KSEN との交流が少しずつ再開できている。19 期にはさらに交流の頻度や手段について検討していく。</li> <li>• JSNA 内で国際交流活動を広く周知するため、第 19 期および 2026 年の第 12 回大会での国際交流の企画について検討する。</li> </ul>
認定事業運営	スポーツ現場において PDCA サイクルに則った実践活動ができる公認スポーツ栄養士を養成する。	スポーツ現場において PDCA サイクルに則った実践活動ができる公認スポーツ栄養士を養成する。	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公認スポーツ栄養士の検定試験合格率アップと合格に向けたフォローアップを継続する</li> <li>• ベーシック講習会を滞りなく運営する。</li> <li>• 養成講習会テキストの改訂作業を進める。</li> </ul>	達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公認スポーツ栄養士の検定試験合格率向上と合格に向けたフォローアップを継続して実施し目標は達成した。合格率は増加傾向であるが、詳細な追跡調査が必要である。</li> <li>• ベーシック講習会は、滞りなく運営した。今期より、質問受付フォームを設置し、講義終了後の質問者へ対応した。</li> <li>• 養成講習会テキスト改訂作業は、市村出版と学会執行部の打ち合わせがもたれ、執筆者依頼の段階に入った。2026 年度受講生からのテキスト利用を目指し進めている。</li> </ul>
			実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門講習会事前説明会を開催する。</li> <li>• 専門講習会受講者交流会を開催する。</li> <li>• サテライト講習会を開催する(2 回/年)。</li> <li>• 再検定試験を実施する(2 回/年)。</li> <li>• 検定試験未受験者へ検定準備講座再受講の機会を設ける。</li> <li>• ベーシック講習会を、2024 年 12 月にオンラインで開催する(3 日間、受講者定員 180 名)。</li> <li>• 養成講習会テキストの改訂作業のためのプロジェクトチームを立ち上げることを検討し、素案作成を行う。</li> <li>• 講習会運営に関するマニュアルを整備する。</li> </ul>	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2024 年 8 月に専門講習会事前説明会(新規受講者説明会)を開催し、参加者は 70 名であった。</li> <li>• 2024 年 9 月、学会大会内で専門講習会受講者交流会を開催し、132 名の参加があった。</li> <li>• 2024 年 4 月、10 月にサテライト講習会を開催し、25 名、10 名の参加があった。</li> <li>• 2024 年 8 月と 2025 年 1 月に再検定試験を実施した。</li> <li>• 2024 年 10 月に検定未受験者に検定試験未受験者へ検定準備講座再受講の機会を設けた。</li> <li>• ベーシック講習会を 2024 年 12 月にオンラインで開催し、179 名が受講した受講者アンケート、を実施した。</li> <li>• 講習会運営に関するマニュアル整備のための具体的なスケジュールを立て、進める。</li> </ul>

ホームページ・広報	ホームページを通じた学会活動の情報発信と見える化の充実	ホームページを通じた学会活動の情報発信と見える化の充実	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認スポーツ栄養士の現状に関するアンケートを実施することを検討する。</li> <li>・通期で新規サイトの安定的情報発信を実現する。</li> </ul>	達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート実施に向けて計画を策定し、倫理申請の承認も得ることができた。</li> <li>・通期で安定的に情報発信を行うことができた。</li> </ul>
			実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認スポーツ栄養士の現状に関するアンケート実施に向けて、以下の通り計画する。 (2024年9月～12月)実施計画、ならびにアンケート内容の具体化 (2025年1月～5月)実施準備 (2025年6月～8月)アンケート実施</li> <li>※第11回学会大会期間中に最後の周知を行う。</li> <li>・学会事務局、ならびに執行部、委員会内部で連携し、学会ならびに会員から情報発信内容を集約し、発信フローに則り、通期を通して情報発信を行う。</li> <li>・2ヶ月に1回の頻度でHP全体を見直し、更新や改訂情報の確認を行う。</li> </ul>	経過評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年3月までにアンケート実施に向けた計画を策定し、倫理申請の承認も得ることができた。アンケート項目も大凡確定し、実査に向けたweb調査ページの作成を行っている状況であり、計画通り順調に進んでいる。</li> <li>・発信フローに則り、順調に情報発信を行うことができています。</li> <li>・HP全体を見直し、発信情報の更新や確認を行うことができています。</li> </ul>